

一 般 講 演

1. 甲状腺腫瘍のタリウムシンチ

○藤田 信男 吉井 修

井上 孝

(京都第一赤十字・2放)

結節性甲状腺腫は、 ^{131}I 、 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4$ で cold nodule を示し、良性、悪性の鑑別はできない。甲状腺 RI アンギオの初回通過時の Image は、Cold nodule の Vascularity の有無、大小を明らかにし、Cyst の診断、非 Cyst の増殖、予後判定にある程度参考になり、 ^{131}I のごとき前準備の必要なく、随時実施し得る実用的検査であることを、昨年の本研究会に発表した。

TI は、前準備の必要なく甲状腺腫瘍の優れた描画に注目を集めているが、Cyst に入らないほかは特異性の面で難点があった。しかるに、TI の 2 時間 delayed scan では、良性腫瘍には hot 集積を証明しないが、悪性腫瘍例では hot 像を残存する事実を発見、悪性、良性腫瘍の鑑別の可能性を示唆する報告が昨年日赤医療センターほかからあり、われわれも 53 年 11 月以降 2 時間 delayed scinti を付加して検討を試みた。

手術、バイオプシーにて診断確定した結節性甲状腺腫計 16 例 (内訳下記)、TI. 2~3.5 mCi 静注後、直後~30 分以内 (Initial または early)、2 時間後 (2 時間 delayed) にサール社製 LFOV にて撮像。

結果：Colloid cyst 3 例は全例終始 Cold であった。濾胞腺癌 3 例、乳頭腺癌 1 例の悪性腫瘍群は、2 時間にも比較的強い hot 集積を証明した。これに対し、良性腺腫の濾胞腺腫 4 例中 1 例のみ 2 時間に消失したが、3 例は hot 残存。慢性甲状腺炎 5 例中 1 例のみ 2 時間消失。2 時間 hot 残存 4 例を証明 (なおこの中 1 例は強い集積を持続)。しかし、残存集積 hot は良性の場合は悪性に比し軽度の傾向がある感があり、われわれの場合 3 時間またはそれ以後の delayed scinti による検討が必要であるが有望である。

2. Double isotopes 法 (^{131}I , $^{99\text{m}}\text{TcO}_4$) で異なった像を呈した甲状腺腫瘍の scintigram

熊野 町子 石田 修

(近畿大・放)

小川 恭弘

(兵庫がん・放)

梶田 明義

(大阪成人病・放)

結節性甲状腺腫 68 例を対象に、 ^{131}I と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ との甲状腺 scintigraphy を行ない、両核種による image の相異を検討した。

68 例のうち 20 例に両核種の scintigram で異なった像が得られた。 ^{131}I で欠損像を呈し、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ で集積像が得られた症例は濾胞腺腫 2 例/6 例、濾胞癌 4 例/9 例、乳頭癌 1 例/13 例、未分化癌 3 例/3 例の計 10 例である。逆に、 ^{131}I 像より $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 像の欠損が大きく描画された症例が、濾胞癌 3 例/9 例にみられた。さらに、 ^{131}I で病巣部が指摘できないうで、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 像で指摘できた症例が腺腫様甲状腺腫 1 例/15 例、濾胞癌 1 例/9 例、乳頭癌 2 例/13 例、混合型 2 例/3 例の計 6 例にみられた。

^{131}I と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ が相違した像を呈した症例は、濾胞腺腫や甲状腺癌に多く、特に、 ^{131}I で欠損像を呈し、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ で hot な集積を示す症例は濾胞腺腫、濾胞癌、未分化癌が多かった。これらの相違は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ は捕捉作用を現わし、 ^{131}I は有機化された現象を描写する代謝の相違、両核種の scintigram を得るまでの時間的な違いおよび energy の違いなどの原因によると思われる。

このように、 ^{131}I と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ で疾患により異なった像が得られることがあるため、いずれかの一核種のみを用いた scintigram では診断が困難であったり、病巣が把握し得ないことがある。従って、結節性甲状腺腫の診断には、 ^{131}I と $^{99\text{m}}\text{Tc}$ とによる scintigraphy が望ましい。